

通所介護事業所移転に伴う変化について

発表者 田中 聖二(介護福祉士)

【はじめに】

デイサービスはなぶさ(以下、当事業所)は、今年に入り地域の介護ニーズに応じる為、地域密着型通所介護事業所より通常規模型通所介護事業所へ事業転換するに至った。事業規模の拡大や設備等が変わったことで、事業所の運営体制に変化が生じている。さらに昨年末より「COVID-19」感染拡大に伴う影響も出てきた。そこで、今回は事業転換前と後に実施した事業所満足度調査から見えてきたことについて、ここに報告する。

【対象と方法】

対象者・期間:デイサービスはなぶさ利用者・家族 令和元年度 29 名、令和 2 年度 31 名

方法:

- (1) 令和元年度 満足度調査実施(実施日 令和 2 年 2 月 10 日) 回答率 82.7%
- (2) 令和 2 年度満足度調査実施(実施日 令和 2 年 9 月 15 日) 回答率 83.8%
- (3) 令和元年度と令和 2 年度の調査結果データを比較分析

【結果】

- (1) 事業転換前と事業移転後(以下、前、後)の事業所の雰囲気や環境に関して、後の結果から「非常に良い」が 38.4%、「良い」が 50%となった(計 88.4%)。前と比較して回答の傾向は変わらないが、合計では 5.1%改善した。
- (2) レクや体操等の活動に関しては、前では 87.5%が「非常に良い」「良い」と回答。後では 80.7%が「非常に良い」「良い」と回答。後が 7.4%悪化した。個別機能訓練に関しては、前では 75%が「非常に良い」「良い」と回答。後では 61.4%が「非常に良い」「良い」と回答した。後が 13.6%悪化した。
- (3) 入浴に関しては、「非常に良い」との回答が前 29.1%、後 42.3%と 13.2%改善した。
- (4) スタッフのケアや対応に関しては「非常に良い」との回答が前 62.5%(良いは 29.1%)、後 65.3%(良いは 26.9%)と殆ど変わりはなかった。
- (5) 食事に関しては「非常に良い」が前 45.8%、後 38.4%と 7.4%悪化した。さらに後では 3.8%が「悪い」と回答した(前はなし)。
- (6) COVID-19 の影響について、「マスク」を外したい、外出や外部の人と会えなくなった等の回答があった。さらに生活環境が変わったことで、時々孤独感や淋しさを感じる利用者や家族の回答もあった。

【考察・まとめ】

当事業所は地域のニーズに応える為に、定員 15 名の地域密着型通所介護事業所から老健施設愛と結の街内に場所を移転して通常規模型通所介護事業所になった。それに伴い、定員も 30 名となり規模も拡大した。スタッフにとっては介護環境が整い、よりケアがしやすい状況にはなったが、その反面、利用者にとっては少なからずロケーションダメージがあるのではないかと懸念があった。今回、移転後初めて満足度調査を実施したことで、様々なことに気付くことが出来た。結果から、移転後の環境に関しては比較的早く順応して設備面等でも満足度が高いことが分かった。特に入浴に関しては家庭用の個浴槽から大浴場となり、温泉に入った気分になれて良いという声をよく聞くようになった。さらに利用者が複数人で入れることも円滑な他者交流に寄与していると思われる。また、レクや体操、機能訓練に関しては、事業転換前と後のプログラム内容的には殆ど変わりがないにも関わらず満足度は低下した。記述にもあったが、COVID-19 の感染予防の為に様々な活動の場面においてもマスク着用が必須である。事業所としてもマスク着用や手洗い消毒の徹底や 3 密を避けることを利用者や家族へ日常的に働き掛けている現状がある。活動時にはマスクをしながら動くのはきついという声も聞かれているので、利用者には身体的・精神的な負担が生じているのではないかとと思われる。また、食事についても事業転換前は「仕掛学」の考えを取り入れて、盛り付けや配膳等をスタッフと利用者が共同で行うことが日課であった。そのことが利用者のエンパワメントを引き出すことに繋がっていたのではないかと考える。事業移転後は感染予防の観点から、スタッフがその役割を担わざるを得ない状況にある。食事内容は基本的に変わっていないことから、別な形でエンパワメントを実現するやり方を工夫する必要があると思われる。

満足度調査の結果は、その他の項目も含めて概ね高い評価を得ることが出来た。しかし、その内容を細かく見ていくと今事業所が抱えている課題が浮き彫りになる。当事業所は事業移転後も一貫として、「在宅限界を高めて、生き甲斐作りや役割作りを通じて住み慣れた家庭や地域で活動の幅を広げて行ける」ことに注力している。事業所移転に加えて、COVID-19 の影響というこれまでにない変化の中で、解決しなければならない課題も多いが、利用者・家族の声に耳を傾けてよりよいケア環境作りに知恵を絞って行きたい。

〈参考文献〉

いのちの輝きに寄り添う エンパワメント科学 高山忠雄監修 安梅勅江/芳香会社会福祉研究所編著 北大路書房